

施策：	15	地域福祉の推進	財務コード	01030101-04-00
基本事業：	03	地域福祉を支え、推進する人や組織づくり	担当部	健康福祉部
基本事業の成果指標	福祉委員の数 地域での福祉活動に参加している市民の割合 福祉ボランティア数 コミュニティ単位で組織された民生委員協議会の数		担当課	生活福祉課
			担当係	地域福祉担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
特定非営利活動法人 筑紫原爆被害者の会			筑紫原爆被害者の会の運営費を補助する。 筑紫地区5市統一の補助額として1会員当たり1,000円補助している。							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			【筑紫原爆被害者の会の主な活動】							
原爆被害者の会の活動を支援することにより、原爆の恐ろしさ、平和の大切さを語り継ぐことができている。			<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の発行 ・小中学校を対象として、実体験を話す語り部活動 ・追悼式等式典への参加 ・原爆被害者及びその家族に対する相談事業 							
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	01年度 実績	02年度 実績	03年度 当初	04年度 要求	05年度 計画	06年度 計画	目標	
筑紫野市の会員数		人	156	150	156	136			166	
市内小中学校での語り部活動回数		回	8	7	7	7			7	
5. コスト										
事業費		計	千円	156	150	136	127			
		国	千円		0	0	0			
		県	千円		0	0	0			
		地方債	千円		0	0	0			
		その他	千円		0	0	0			
一般	千円	156	150	136	127					
正職員人工数		人工	0.02	0.02	0.02					
正職員人件費		千円	161	161	158					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	317	311	294	127				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		小中学校での原爆被害授業を継続することにより、その悲惨さを語り継ぐことができている。また、原爆被害者の高齢化による減少及び戦争の風化により、語り部活動の重要性はより一層高まっている。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	会員数が減少傾向とはいえ、筑紫地区各小中学校への語り継ぎ証言など幅広く活動している。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は小	業務推進課題	なし							
成果向上余地	小さい									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）										
備考・特記事項 or 進行管理欄										
原子爆弾による被害者及びその家族で構成する「筑紫原爆被害者の会」の活動を支援する目的として、補助金を交付している。補助金額については筑紫地区で決められた算出方法となっている。近年高齢化により会員が減少している。										